



へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna Contents
「へら鮒」の題字/叶 九隻

No.476
Aug.2005



釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼
隼人大池 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
将監 柳生FP 筑波白水湖 泉堰 逆井HC
友部湯崎湖 水藻FC 甲南へらの池
三和新池 狭山HC 新座LC 川越FC
府中HC 当麻池 多賀釣池 芦田湖水光園
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池 田島池
霧の沼 清川つくしF.C 小川つり堀園
三名湖・舟宿 光月 千代田湖・舟宿 千和
西湖・釣舟 白根 西湖・釣り宿 丸美
西湖・釣り宿 青木ヶ原 165ページ〜

●今月の表紙●
field: 芦ノ湖
photo: 本誌・里
layout: 本誌・里

- 8 **特集 NEO-HERA2005開幕。【第一戦 芦ノ湖】**
田中雅司【魚心掌握】
- 23 **第5回マルキューチョーチン王座決定戦**
杉山達也【SPLASH BEATⅢ】
- 31 **2005バリバス・グランカップへらトーナメント**

COLOR (カラー)

- 38 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅… **へらぶな浪漫街道**
《第三十一回》高知県・津賀ダム
- 44 **小池忠教 激釣大全**
《第六回》三島湖
- 51 **棚網 久 あなたの夢を叶えます。**
失業中の私にG魂を注入して下さい! ~ヤマ完全制覇~
ドリーマー: 大串 博さん 釣り場: 河口湖・田貫湖
- 58 **第19回 マルキューモニター懇親会**
- ★AREA REPORT
 - 59,66 豊英湖 (千葉県) 本誌・伊藤洋一
 - 60,68 月形皆楽公園沼 (北海道) 北林正行
 - 61,69 前川 (石川県) 山本一朗
 - 62,70 つつじ池 (岐阜県) 後藤 誠
 - 63,71 津風呂湖 (奈良県) 前田誠志
 - 64,72 甘木公園の池 (福岡県) 河口正伸
- 134 **竹とともに生きる。**
《第24回》寿るす美 裏川修治
- 137 **戸張 誠 野釣り道場**
《第十五回》【千代田湖・宙釣り】
- 143 **田辺哲男の「それってどーゆーことよ!？」**
《Vol.30》【タイトハリス・浅ダナ両ダンゴ】part II
応用編!? 激ムズ地合の椎の木湖を、古川 実が切り裂く!
- 148 **吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」**
《Vol.37》ひとピー、「都会派」に転身!
大東京に残るオアシス発見!
- 152 **稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO危険度120%**
《第8回》大塩湖付近の野池 (群馬県富岡市)
- 156 **ダイワペアバトル2005**
- 157 **シマノ浅ダナチョウチン一本勝負!!**
- 158 **ダンへら名人 クラブ対抗ペアへら鮒釣大会**
- 159 **HERA-1GP 全国へらバナ釣り選手権大会**
- 160 **私の宝物**
《Treasure.6》ゲスト: 梶 正樹さん
- 194 **岡田 清 Deep Side Angle**
《Vol.22》【エサ合わせ】 谷和原大沼 (茨城県)
- 201 **北川穂積の全国野釣り行脚**
《第7回》吉井川 (岡山県)
- 204 **釣りの帰りに寄りたいたいお店**
《file.12》【はっぼうや】のチャーハン&春巻&しゅうまいセット
- 206 **釣果予想クイズ**
- 208 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》岩崎なお子さん 野田幸手園 (千葉県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 76 **へら鮒釣り 超基本講座**
《第8回》へら鮒釣りの基本中の基本、底釣り(タナ取り編)
- 83 **あらいしのぶの なぜなぜしのちゃん**
《第8回》「しのちゃん、野池&管理池で大釣り!？」
釣り場: 八重笠沼&金山湖 教授: 稲毛師匠
- 88 **NHCスピリット**
《Vol.23》三沢成彦 in 清遊湖
- 92 **トーナメント小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!**
《Vol.20》休日の清遊湖で竿頭を狙う
- 99 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**
《Vol.38》「脳内セット」PART II
- 106 **そんなモジリにダマされて… 天野正由**
《その20》涼風渡る高原の湖(白樺湖)
- 110 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**
《今月の星空》「平日例会」
- 115 **どやさー 今月の釣り場 西田美明**
《その8》天々勝負一生野銀山湖
- 118 **最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ**
《第二十九話》【西川口流でビュウイゴ! へら鮒探検隊 in 茅沼2】
- 122 **母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦**
《第4回》通称「浅だめ」(大同川)
- 126 **野田幸手園新聞**
- 162 **ワクワク管理釣り場情報**
- 171 **小売店情報**
- ★へら鮒BOX
 - 177 里ちゃんの新米編集長雑誌
 - 178 情報発信基地
 - 180 ボイス
 - 186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
 - 187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
 - 188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
 - 189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中塚伸行
 - 190 プレゼント発表
 - 191 広告索引
 - 192 編集後記

STAFF

- Producer
根本百合子
- Editor in chief
田中里史
- Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一
- Planner
〈オフィス・えぶ〉
藤原 肇



この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

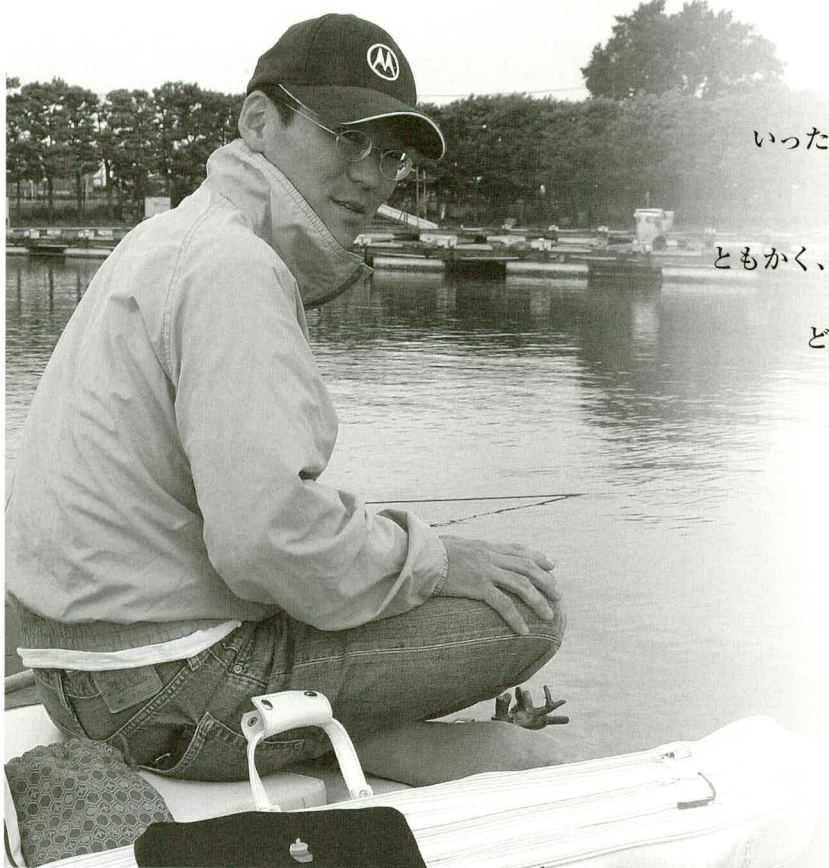
江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！～のハスが更新停中！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.38〉

「脳内セット」 PART II



さて、今月号はいよいよ「本題」。
椎の木湖での両ダンゴを通して、
江成の頭の中で、
いったいどんな脳内変換が行われたというのか？
…というより、この人の頭の中は、
いったいどうなっているのだろう…。
ともかく、濃ゆ～い江成ワールド全開のPART IIに、
いったいアナタは何を感じるだろうか？
どうか途中で諦めずに最後まで読んでみて！

by 里ちん

昨年10月の取材時、同場所での釣果とは思えないほどの小型が揃った。里ちんが書いた原稿に、「型は揃わない(小さい)かもしれないけど、俺の昔のエサでも釣れそう」という僕のセリフがあるが、この時点で僕はすでに自分の釣りの欠点を自覚していた証拠である。伊藤氏をゲストに迎えた一昨年の羽生吉沼での取材時にも、全く同じ釣り方にもかかわらず二人の釣った型に大きな差が生じていたが、これは偶然でもなんでもない。完璧なエサ勳を持つ伊藤氏は、中小べらのかわし方が自在である。羽生での僕は氏の釣りを真似ていたが、やはりギリギリで氏より締ったエサを打っていたことに僕は気付いていた。中小べら

僕は80枚で50kg…。

58枚で45kg。

目に飛び込んできた数字に、愕然とした。

「電源はそのままいいんだな…。え？」

そう思った僕は、伊藤氏の検量器を覗いた。

「伊藤さんはどうしたんだろ？」

電源を落としていいのかわろ迷った。

を差し引けば、実は途中からますますのへー

を振り続け、ちょうど80枚目を引っ張った時

人の釣果を確認したかった僕は、検量器の電

た。出だしのボケと仕掛作りに費やした時間

を差し引けば、実は途中からますますのへー

を振り続け、ちょうど80枚目を引っ張った時

人の釣果を確認したかった僕は、検量器の電

た。出だしのボケと仕掛作りに費やした時間

を差し引けば、実は途中からますますのへー

を振り続け、ちょうど80枚目を引っ張った時

人の釣果を確認したかった僕は、検量器の電

た。出だしのボケと仕掛作りに費やした時間

を差し引けば、実は途中からますますのへー

を振り続け、ちょうど80枚目を引っ張った時

人の釣果を確認したかった僕は、検量器の電

た。出だしのボケと仕掛作りに費やした時間

を差し引けば、実は途中からますますのへー

を振り続け、ちょうど80枚目を引っ張った時

「先月号より続く…」

錯覚。

に捕まる頻度が氏より多いと感じたからだ。そしてそれは、取り込んで型を見る前に判断がついていた。自分でアワせたアタリである。イマイチ一定しないアタリに本物の地合はない……。

コンパクトなストロークで追えるへらは、活性が高いと言えるかもしれない。しかし活性が高いイコール良型とは言えない。この場合、「活性の高さ」という言葉より「へらの動きの早さ」と言い換えた方がいいだろう。動きの早いへらは中小型が多い。では、「たまに出る早いアタリで大型」というケースはどう説明したらいいだろうか？ 動きの早さで説明がつかないと心配されるかもしれないが、これはへらのいる位置で説明できると思ふ。「追いが良い最も動きの早いへらが厚く寄った位置とは違うところにいる大型」という図式だ。ここで、「違うところ」というのが、へらの好むタナとしての「上」や「下」ではなく、「遠巻き」という可能性の場合もあることを見逃すことは出来ない。

面白いデータを記しておこう。今回の取材では、僕のコンパクトな倒れ込みでアタらずナジんでしまう場合、アタるまでにややもたついていたものの、ときおり出るそこからの力強い消し込みに大型が乗った。伊藤氏は逆に、ナジんで静止してからのアタリで乗っても、小さいへらが多かった。

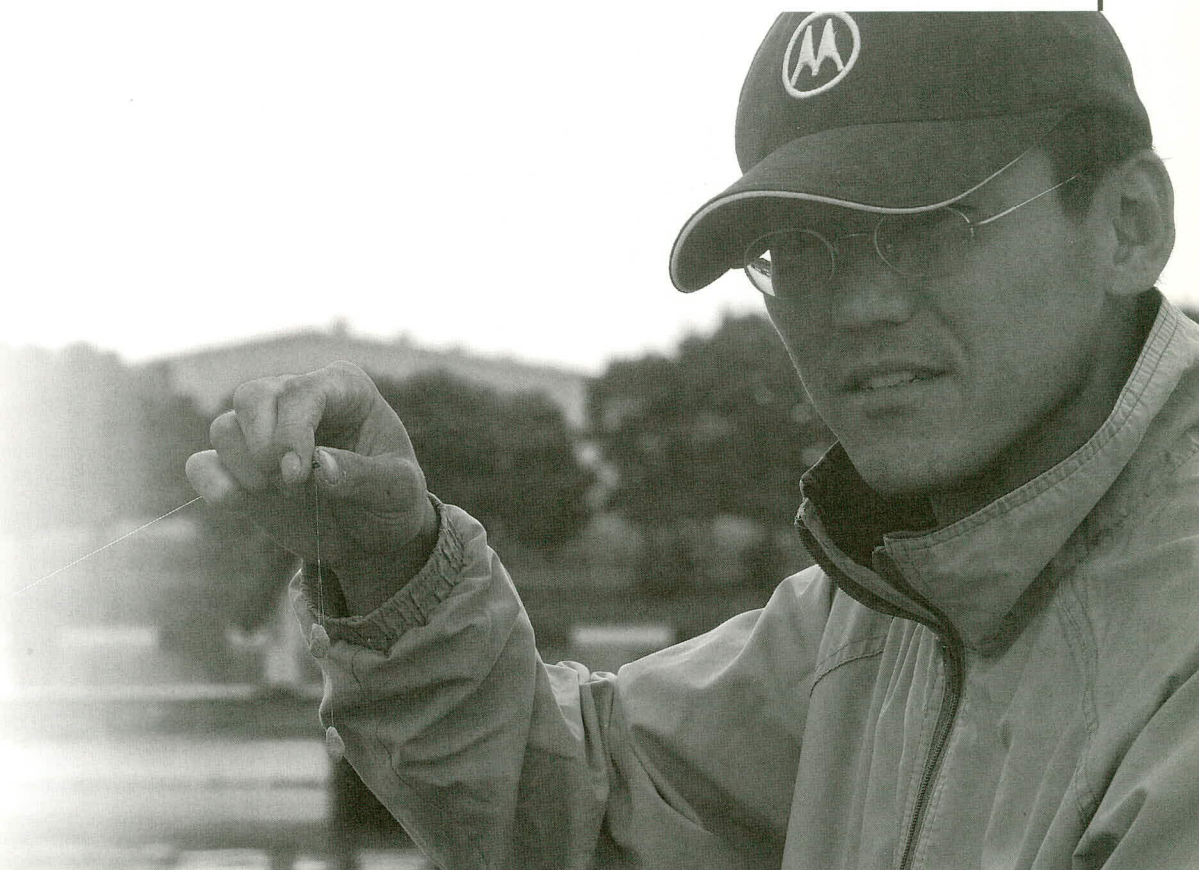
出るアタリそのものが少ないという点は、ストロークがコンパクトな僕の釣りだけでなく、伊藤氏も同じであった。つまり取材当日は、ダンゴにはイマイチかったらしい状況であったと言える。しかし平日。僕はセットに移行する気は全く起きなかったし、ダンゴ派の伊藤氏の頭の中にもセットは全くなかったに違いない。だがしかし、岡田君がよく言う「ダンゴを凌駕するセット」とは、まさに今回のような地合で可能だったのではないだろうかと思うのだ。アタリつきりとは呼べないと

しても「ムリムリダンゴ」というわけでもなく、ともすれば一日ダンゴで釣り通してしまいがちな状況。腕に自信がある人ほど、セットに変更など考えもしないのではないだろうか。競技会のルールが「ダンゴしぼり」ならそれでかまわないが、実はセットにバカバカ釣られてしまう地合だったのかもしれない。

遠巻きへら反応系。

取材当日の「ダンゴでのかつたるさ」をもう少し詳しく書くと、へらはもちろんたくさんいたが、エサの芯に飛び付かずに遠巻きで見ている、というイメージだった。さらに、遠巻きとはいっても、バラけていくエサのすぐ直近という感じ。で、このイメージをどうやって引き出したのかも書いておきたい。

僕のセッティングではすんなりナジんでしまうケースが多かったが、そういう場合でも全くへらの気配がなかったわけではない。エサのまわりにはいることは、微弱ながら「まこと・自作自演バージョン」は伝えてくれていたのだ。ここで僕は、試しに一段とエサを硬めにシメてみた。今度は弱いながらもアタリと呼べる動きに変わった。より固形に近い方が反応する。バラけた粒子を吸いあおっていた証拠である。そのエサでアタリが続けば光が見えるのだが、残念ながらどうかやほりというか、数投後にはアタリが飛んだ。平日とはいえ無理タナ。締まったエサで、ナジみきつた位置にへらを溜め続けることには限界がある。ダンゴで攻めるなら、エサが微妙にヌケ過ぎてアタれない、もしくはアタリが流れるケースが頻発したとしても、寄りを保てる伊藤氏のエサとセッティングが正解なのは明らかだった。とはいえ伊藤氏自身は決して満足していたわけではない。イイ感じで





サワられつつウキが入っていき、理想のタイミング(食い頃のイメージ)でアタっても空振りが多く、その度に普段は物静かな氏は声を出してのけぞっていた。ここで氏は、軽はずみにエサをシメる方向への手直しは当然せず、しばらくは小エサ*にして様子を伺っていたように見えたが、イマイチ思い通りの展開にはならなかったようで、その後は頻繁な手直しへと突入していった。そんな印象の伊藤氏の釣った枚数を基準にしたため、僕は自分の釣った枚数にじゅうぶん満足出来ると感じたのだが、あくまでもそれは枚数だけで比較

した場合の話だ。型の違いをハッキリと見せつけられた今、このままではお話にならない。だから、「セット」なのだ。自分のセッティングを活かすなら、それしかない。ダンゴのやや遠巻きに大型がいるという構図は、うまくやればセットで型が揃う可能性を秘めているからだ。

バラケへの反応を引き出しつつ下バリのクワセに飛びつかせるセット、すなわち「反応系」は、僕達の短パリスセッティングでのセットの原点であった。肝心のダンゴタッチのバラケだが、当時はダンゴから入ることが多く、バラケ合わせはダンゴを合わせる過程でほぼ終了していた。「ダンゴっほい」感じで打ち始めるというようにいい加減なものではない。セットに切り替えるつもりではいても、真剣にダンゴを食わせようと努力したのだ。僕達は「ぶつかりで食わせる」というイメージを持っていた。「ぶつかり」とは、開きが足りないダンゴに対し、へらが体当たり(笑)や頭突き、もしくは最初から吐き出しを想定した吸い込みによって、バラケを促進させようという行為を指す。一般的な「持ち過ぎのカラツン」なら、「ぶつかり」を送って本アタリまで待てば釣れるし、ハナから食い頃のエサを打つことができればもっと回転が早くなるが、そううまくいかないケースは多い。多くの読者が経験しているように、へらのアクションが1投につきワンチャンスというケースも多いのだ。渋いのに「速攻気味で一発取り」というのはまさにコレ。「アタリ返し」は、釣り人の技量にもよるが、へらの活性に頼る部分も大きい。

「アタらせるにはバラけてはいけない地合」は、へらが本当に欲しいのは粒子であって、エサの芯ではないという状態ということになる。これが、ぶつかりを「利用」して食わせる(芯に近づけさせる)と考えるタイミングであった。本来はカラツンではないそのア

タリを食いに繋げるためには、へらがサワるまではノーバラケで、へらがサワったら一気に崩れるエサが理想。だが、そんなエサはダンゴでは不可能。つまりこのような状況下でダンゴを打つということは、ある程度のカラツンは覚悟の上での拾い釣りになるのは最初から分かっていることなのだ。どうやっても理論的にイレバクはありえない中で、どこまで確率を高められるのか、試行錯誤の過程には例えばセット的な両ダンゴも含まれるだろう。努力するだけ無駄なのか、それとも騙し騙し続けるのか。自己の技量とへらの状態を冷静に見極めなければならぬ。その結果、今回の取材のように「ダンゴではイマイチ」「へらはやや遠巻き」というデータが拾えるわけだが、その「接点ギリギリで不正解のエサ」が、バラケのベースになるのだ。セットへ移行するにあたり、まずはエサの作り替えは有り得ない。

僕達はシメきったエサでのへらの寄りを見定めてから、暖季ならセットかトロコンかを選択した。最近ではトロコンを使っている人をあまり見かけないが、当時の僕達は多用した。シメきった両ダンゴで寄りが保てるかと判断した場合、トロコンで「いただき♡」になるケースは多かった。懐かしい思い出だが、トロコンについてはまた別の機会に触れたい。すでに字数は思っきりオーバーしている筈で、最近としてはかなり小さい字に不満を覚えている読者も多いことだろう。(※編集部注：2カ月に分けてさせて頂いてます・笑)

セットを選択する場合は、「お手軽」以外に確固たる理由があった。「寄せ効果」である。両ダンゴに比べれば、ダンゴ(バラケ)はひとつしかない。しかし、アタらせるための芯が要らない分、両ダンゴで使っていた時より一段アマク出来る(理論的には、ここでバラケへのカラツンは心配無用ということになる)。アマクするといっても、何もパッサパサ

大小、様々なへらがぎっしり！ カツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください！！

アタる！ 釣れる！

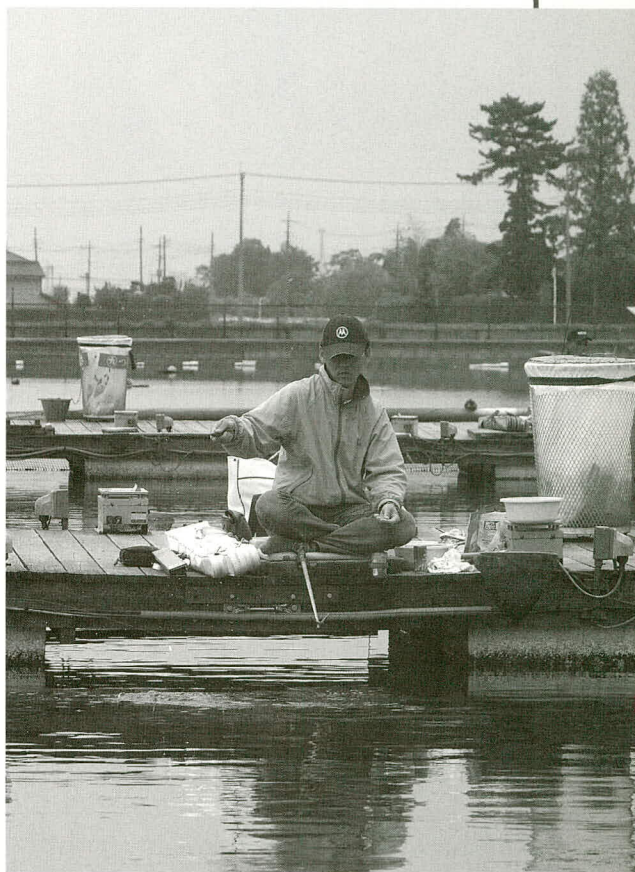
谷和原大沼



- 入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円
- 営業時間
4~9月 平日 6:00~16:30
土日祝日 5:30~16:00
10~3月 平日 6:30~16:00
土日祝日 6:30~15:30
- 規定 竿7~18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)

〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

大型新べらの強引を味わいに、ぜひお越しください！！



のバラケを打たなくてもいい。それまで使っていたダンゴをちよつと戻してやればいいだけのこと。粒子の総量はダンゴふたつ分に負けても、その分開きでアヒールは補えると考える。で、ここではじめて「段差」について考えることになる。広がった拡散範囲にあわせ、クワセの位置のスリを修正してやるのだ。先程ダンゴからセットへの移行が「お手軽」と書いたのは、エサだけでなく仕掛けもとりあえずそのままOKという意味だった。当時はセット釣りと段差釣りを混同している釣り人も多く、クワセをつけたらハリスをうんと伸ばさなければならぬと思ひ込んでいる人も多かった気がする。

ちなみに暖季のセットでは、僕はウドンはほとんど選択せず、オカメかト口巻きたった。ウドンは粒子の一部というよりは、疑似・芯であるという僕の認識が、食わせるには無理があると感じさせていたのだ。疑似・芯であれば、さっきのダンゴと同じだ。へらが触れた際、粒子が全く散らないものへ

は「ぶつかりでしかない」と考えていた。ぶら下げてアタリを待つことしか頭になかった僕達にとって、実際ウドンには激カラしか記憶が残っていない。岡田君、カットビ君も含め、バラケ合わせに走った僕達。粒子の組み換えに、どうにか活路を見い出そうと必死にもがいた。しかし、セットの構図に「動」のイメージを持たなかった僕達は、すぐに手詰まりになった。見落としたのは下バリの動きだけではない。目的のタナ以浅も含めたバーチカルな粒子の動きであった。僕はこの辺へら釣りからフィードアウトしているのだから、その後のカットビ君の活躍や、岡田君の暗黒時代をタイムリーには知らない。

「粒戦」に代表される、現在流行のペレットの顆粒を用いた立体的な粒子の組み立てを、メジャーに押し上げたのは茂木昇一氏だと聞いている。残念ながら岡田君はここでも出遅れたことになる。それでも情報さえあれば、百戦錬磨の岡田君がマスター出来ないはずはないのだが、以前のディーブサイドアングル

では、その新しい理論を取り入れるにあたり、「自信がない」というようなセリフが載っていたと記憶している。が、それは絶対にウソだ。謙遜でしかない。粒子の組み換えにさんざん時間を費やした岡田君にとっては、フィールドで試す前から自信があったはずである。

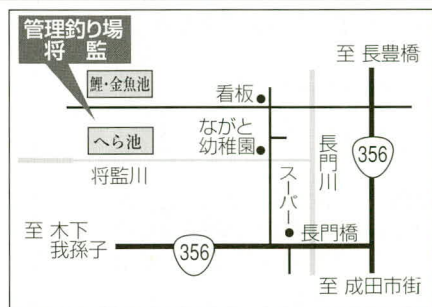
*エサをシメるという場合、一般的には、エサの2大要素であるネバリが硬度を増す行為を指す。その結果抑えられるものには、「開き」「ヌケ」「バラケ」「ふくらみ」など様々な呼び方をされるものがあるが、これらは「その1投が最終的に水中に提供する粒子の総量」を意識した言葉ではない。コントロールされるのは、「ある大きさ」のエサ玉の、「動き」「大きく崩れ出すタイミング」「溶け切るまでの時間」「へらにサワられた時のリアクション」であって、大きさには一切関係ないものばかりなのだ。

「エサを小さくしたらアタった」という話によく耳にするが、「今までは大き過ぎて食べ辛かったんだネ」という解釈だけで済ませていいものなのか？ 大きさだけなら、固形以外は待てば必ず小さくなる以上、待てばアタるはずということになるが、現実には厳しい。ここで、「水中に提供する粒子の総量」を考慮すると先が見えてくる。仮に元の大きさのエサと同じ開き方、同じタイミング、同じ拡散範囲だとしても、直前の1投までで寄せたへらの1枚当たり供給される粒子の量が少ないということになる。こぼれた粒子を追うだけでは満足出来ないへらも、中には出てくる可能性があるのだ。総量が少ないことで、単純にへらの競争意識をおおると考えてもいい。ちなみに、その小エサがタナまでキチンと届くかどうかは、やってみなければわからないことだ。そのエサ自体の持ち具合の他に、目的のタナに達する前のへらの反応にもよる。寄りを継続できるかどうかも分からないが、

〒270-1523 印旛郡栄町脇川96
☎0476・95・0409

管理釣り場 将監 (しょうげん)

- 営業時間 4~9月 日の出~17時
10~3月 日の出~15時
- 料金 平日 1,500円 半日 (11時~) 1,000円
土・日・祭日 2,000円 半日 1,500円
女性・子供 1,000円
- 規定 竿8尺以上
- 鯉、金魚釣り開設!
営業時間 9~16時 (平日、日曜共通)
2時間1,000円 (貸し竿、エサ一式込み)



釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

「両ダン」では釣れなかったのに、セットにしたら上ばかり食ってくるよー」なんていうのは、エサを大きくいじっていいいとしたら、寄りには保てていて、なおかつ競争意識アップということなのかもしれない。要は第3のシメ行為「小エサ」も、使い時はケースバイケースということである。

シメ方にも色々あるように、シメる目的も様々だ。粒子をカットし、拡散範囲の内側に近付けるためのシメ。根本的に持たないからのシメ。色々あるが、後者のシメが曲者。僕もよくハマるケースに、シメてより一層ピンポンという状態を引き起こす場合があるからだ。抜いてもシメても同じでも答えが見つからないと感じた場合、実は中間に接点が存在しない可能性もある。その場合、第4の要素である「重さ」を考えていくことになる。

「重さで入れる」という表現をよく聞くと、自分でもよく使う。重さを加えるという行為がシメ行為のひとつなのだ。認識するのには、「入れる」という言葉の役割は大きい。単純に重くなったからナジミ幅が増えるわけではない。追えなくなるへらが出てくることも加味した総合的なものなのだ。そこで「重さ」は、追えるへらの量をコントロールする要素なのだ。という視点で考えると、「重くする」という



行為は「シメ」とは正反対の、「抜いてかわす」バラケ促進方向の仲間だと言えなくもない。いや、「言えなくもない」ところか、その方がよりしっくりくると、今の僕は感じる。なぜなら4つのシメ行為の中で、「重くする」行為だけが、へらをエサに近付ける行為ではないからだ（シメた結果、先々への寄りが保てなくなるといふ状況を想定すれば、全てが「へらを遠ざける要素」ではあるが…）。「重くアマイ、抜けるエサ」は、ここ数年セットのバラケで多用されてきたパターンだが、こうした理解がないと、なかなか思い付かないパターンではないだろうか。

カッツケ大会!

最近、メーター規定につくづく限界を感じているという伊藤氏のリクエストにより、次号はカッツケを取り上げる予定。

「江成君さ、俺、カッツケってあんまり得意じゃないんだよ。カッツケならゲストの先生は知らないでしょ？ ぜび特集して欲しいなあ」「伊藤さんともあるうお方が何をおっしゃるんですかあ！ 僕が書くことなんかいいですよ」「いやいや、1日取材をすれば書きたいことは山ほど出てくるんじゃないの？」

「そりゃまあ口からでまかせで良ければ書けると思いますが…。そのかわり伊藤さんも付き合ってくださいませ！」

「自分だけの判断ではなくとも…編集長に相談して下さい」(笑)

「そっか、里ちゃんも伊藤さんにとってみれば「一応」上司なんでももんね…。なんかそんなイメージはないなあ(笑)。まあでも、とにかく了解しました！ 里ちゃんに相談してみます。あと、以前に「カッツケを取り上げる時はぜひゲストに」って杉山達也君と話をしたんで、一応電話してみます。でも平日は無理だ

ろうしなあ…。そうそう、岡田君にも連絡しときますね」

「江成君はホント、岡田君のこと好きだねえ(笑)。みんなで俺にカッツケ教えてくださいな(笑)。やっぱ、江成公隆っていったら、カッツケでしょう」

「まあまあ、そんなこと言わないでくださいよ。調子に乗っちゃいますから(笑)」

*くどいようですが、原稿が長過ぎて「脳内セット」は二回に分けてお届けしています。6月はスケジュール調整がつかなかったため、カッツケの取材は7月前半を予定しており、9月号に掲載出来る予定!? うーん、怪しいなあ…。

…というわけで、1回読んだだけでは何が何だかサッパリ分らないというアナタ、里も同感です(笑)。願わくば、クドクドな本文を何回も読み返してみてください。きつと、何が見えてくるはず…。まあそれにしても、メーター両ダングの実釣から、ここまでセットの話を書り出すお方も、なかなかいいでしょう…。「次号はカッツケ編！」と息巻いている江成だが、1回の取材で何ヶ月分の原稿が送られてくるのやら…(笑)。

by 里ちゃん

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

8

「No.1を、決めようぜ。」

NEO-HERA2005

開幕

【第一戦 芦ノ湖】



連載連動

トーナメントレポート

●田中雅司【魚心掌握】

第5回マルキューチャーチン王座決定戦

●杉山達也【SPLASH BEATⅢ】

2005バリバス・グランカップへらトーナメント

チョーチンで釣るなら、 私は「天々」を選ぶ。

決まったところで止めが入り、ガチッと明確なアタリが出る。
しかも、それが同じリズムで続く。
こうなれば、チョーチンしめたもの。好釣果が期待できる。
釣れるリズムを組み立てる際、重要なのがエサのタッチ。
ここ数年の傾向では、ヤワネバ系がゆるぎない本命だ。
だから、私は「天々」を選ぶ。
このエサでなら、釣れるリズムに近づけるはずだ。

石井

流行のヤワネバ系ベースエサ。

深いタナまでしっかり持つ、チョーチン釣り用ダンゴエサ。軽いヤワネバ系なので、ハリ付け時の圧の微調整が不要。同じ大きさのエサを、同じ場所に打つだけで、釣れるリズムに近づけます。ダンゴの走りから晩秋までの、長いシーズンに対応。管理釣り場から野釣り場、準山上湖まで、使うフィールドも選ばせません。単品使いが基本ですが、エサづくりの際、シメの1カップに特長のあるエサを加えれば、より幅広い目的や状況に合わせていけます。



●天々(てんでん) 400g スライダーチャック袋

石井旭舟イチ押しパターン

①「天々」3+水1+「白べら」1 ※「白べら」を加えたら、5~10回ほど練り込みます。野釣りにも、管理釣り場にもおすすめ。

カラツンが多いときのパターン

②「天々」3+「粘力」専用スプーン山盛り1+水1+「バラケバインダー」1 ※エサを軟らかく練って使っていきます。

少し重さをつけたいときのパターン

③「ダンゴの底釣り夏」1+「天々」3+水1.5+「GTS」2

寄せる力がほしいときのパターン

④「グルバラ」2+「GTS」2+「天々」2+水2+「スーパーD(ダンゴ)」2 ※山上湖・準山上湖など、野釣りのチョーチンに有効。



こちら、チョーチンにおすすめ。

ハリス絡みを防ぐ効果が高いのももちろん、すばやく簡単にオモリ交換ができ、新しい仕掛けへの再利用もOK。便利さの秘密は、オモリ本体の形状と、スイッチゴムを用いた固定方法。本体にはミチイトを通さないため、仕掛けへのセットが簡単。スイッチゴムもミチイトに通してあるだけなので、新しい仕掛けに再利用できます。本体は環境に配慮したタングステン製で、コンパクトなうえにすばやく沈下します。

- 絡み止めタングステンオモリ 0.5g/0.7g/1g
- ※各サイズともオモリ本体4個とスイッチゴム上下4セット入りで¥1,100(メーカー希望本体価格)
- 絡み止めタングステンオモリ アソートパック
- ※0.5g、0.7g、1gのオモリ本体各1個とスイッチゴム上下3セット入りで¥900(メーカー希望本体価格)



丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>



定価 1000円 本体九五二円